

二水新聞

発行所
金沢市緑が丘20-15
金沢二水高等学校
新聞部・文化委員会

- 2・3面 トキとヒト・和菓子の魅力
- 4・5面 伝校掲示板・新人大会特集①
- 6・7面 新人大会特集②
- 8面 新ALT着任・その他

二水 LIVE 地域に感謝を伝える



ボランティアに励む生徒

毎年行われている二水LIVEが、昨年十一月二十八日に行われた。当日は天気にも恵まれ、生徒たちも積極的に活動していた。二水LIVEとは、各部活動ごとに分かれ本校近辺でゴミ拾いを行ったり、保育園などの施設で清掃ボランティアを行ったりして、町をきれいにする取り組みだ。

開会式で校長先生は「本校舎があるこの緑が丘の地には、日頃お世話になっていきます。そんな緑が丘へ感謝の気持ちを込めて、一生懸命取り組みましょう」と生徒たちに話した。

親子ふれあい体験

子育ての楽しさ・大変さを学ぶ



こどもとふれあう生徒

昨年の十月二日から九日にかけて親子ふれあい体験が一年生を対象に行われた。これは毎年家庭科の授業の一環として行われている。

参加した生徒は「普段こんな小さい子とふれあう機会がないので楽しかったです」といった話や「最初は少し怖がられたけど、慣れてくると抱っこもできました。思っていたより重かったので、抱っこしながら家事をこなすお母さんたちは大変なんだろうと思います」と話してくれた。

また、家庭科の東野先生に話を聞くと「この親子ふれあい体験では、生徒達に子育ての楽しさや苦労をもつて学んでほしいと思っています。また、自分たちがどれだけ大切に育てられてきたかということも考えてほしいです。お母さんたちからの感想は、赤ちゃんに優しくしてくれたり、興味を持ってもらえたりして嬉しいという前向きなものもありますが、大人しくて質問が少ないという意見も毎年必ずあります。お母さん達は本当にどんな質問にも答えるつもりなので、来年度からの生徒達には積極的に質問してほしいです」と話してくれた。

後期生徒会発足

スローガンは「青雲之志」

今年度後期生徒会会長に赤尾美咲さん(20H)、副会長に泉歩君(208H)、書記に今井峻輝君(202H)、丸山和人君(109H)、徳成こころさん(107H)が信任され発足した。そこで、会長の赤尾さんに抱負について話を伺うと「後期生徒会のスローガンは二つあります。一つ目は「青雲之志(せいいうんのこころざし)」です。この言葉は、徳を磨き、社会的に高い評価を受けようとする、立派な人物になろうとする心を意味します。我々生徒会はこの心を持ち、本校で高い評価を受けられるように、二水高校に貢献する活動を率先的に行おうと思います。

また、二水生全員がこの心を持つように、お手本となる人物を目指します。二つ目は「精励働働(せいれいかっくん)」です。この言葉は、力の限り、学業や仕事に励むことを意味します。二水生が学業にも部活動にも学校行事にも全力で取り組んでほしいと思います。このスローガンを決めました。そのために我々もさまざまなことに全力で取り組んでいきます」と話してくれました。



後期生徒会役員の方々

まほろば研修旅行 奈良を巡って



法隆寺を訪れる参加生徒

昨年十二月二十三日から二十五日にかけてまほろば研修旅行が行われた。この三日間で参加生徒は飛鳥や吉野、法隆寺など様々な場所を巡った。実際に奈良を訪れて奈良の歴史を学び日本の原点を見つめ直すこと、生徒が事前に奈良のことを調べて、生徒が自主性を高めること、生徒同士や生徒と先生の間で交流を深める機会をつくることを目的に行われた。今回は九名の生徒が参加した。旅行の引率を担当した岡島清先生は「歴史に興味のある生徒が集まり、事前学習の場では積極的な活動ができた。これから今回の旅行の報告集を作り各教室に配布する予定なので、それを見て歴史に興味を持ち参加希望の人が増えてほしい」と話してくれた。

また参加した生徒からは「教科書で見ていたものを実際に目の前にしてみると多くのことが分かってきました。このことを他の人にも知ってほしいので次回ももっと多くの人が参加してほしい」との声があがった。来年度は皆さんも参加してみよう。

説論

転職は夢と現実の差を埋める

このころ、「転職」をする人が増えているらしい。以前に比べると多くの人が職を変えているという。

昨年、ノーベル医学生理学賞を受賞された大村先生は、現在北里大学特別栄誉教授という立場でいらっしやるが、実はこの大村先生は何度も「転職」の経験者であるという。

転職は夢と現実の差を埋める

山梨県で生まれ育った大村先生は山梨大学卒業後、都立墨田工業高校の定時制の教師として五年間を過ごす。研究職を目指すために教師を辞め、東京理科大学大学院へ。一九六三年に母校山梨大学の助手となり、その後東京大学で薬学博士号、東京理科大学で理学博士号を取得し、一九七五年に北里大学教授となり、さらに北里生命科学研究所長、名誉教授などの立場を経て現在に至っておられる。

皆さんに気づいてほしいのは大村先生の最初の職が「研究者」ではなく「教師」だったということ。職を変えながらすばらしい功績を残す人が少なからずいるというのだ。

人が転職をする場合、大きく二つの場合が考えられるだろう。一つは「現在の職がもともとやりたくない職ではなかった」ということ。もう一つは「希望する職に就いたが、ほかにやりたい職が見つかり我慢できなくなった」ということである。現在の職に不満を抱きながらその職を続けるのは社会の損失に思えるべきではないか。

私達はこれからの社会での活躍が期待されているはずだ。今後はグローバル社会の一層の進展に伴って職種の幅が大きく広がる。今までに想像もつかなかったような職が新たに生まれる可能性もある。職業と本人の適性のミスマッチは今まで以上に起こりうるだろう。そのような場合に転職を考えるのは当然である。自分の意思を無理矢理封じ込めて嫌々ながら今の職に留まるよりも、積極的に転職を考える方がどれだけ良いだろうか。

高校生の私達は、自分が将来どういう職に就きたいかを真剣に考え、そのための準備をすべきである。しかし実際にその職に就いた後に夢と現実の差をどう埋めるか。転職は現実的な選択肢だ。

(吉村)

みなさんは腕時計を持っていらっしゃるだろうか。最近では携帯電話やスマートフォンで時刻を知ることが出来るため、腕時計を持つ必要がなくなってきた。しかし、腕時計は単にそのためのだけのもではない。腕時計には、身につけることによるメリットがいくつかあるのだ。

一つ目のメリットは、気分を学習・仕事モードに切り替えられることだ。朝起きて「何となくだるい」「学校・仕事に行きたくない」と思うことは誰もが経験することだろう。そんな日腕時計を身につけることで「今日も頑張ろう」という前向きな気持ちになりやすい。逆に家に帰ってきて腕時計を外すと、気持ちがリラックスしやすい。このような気持ちの切り替えは、学校生活でも社会に出てからも非常に大切なことだろう。

二つ目は、時間に対する意識が高まり、学習や仕事の効率があがることだ。携帯電話やスマートフォンの時計は自分から見ようとしなければ見ることが出来ない。しかし、腕時計は学習・仕事の合間に自然と視界に入るため、時間の経過を把握しやすい。それによって「時間内にこまごま進めよう」という意識が高まり、学習・仕事の効率があがる。

三つ目は、自信が生まれ、より高いレベルを目指すようになる意識が生まれることだ。高価な腕時計を身につけたり、自分好みのカッコイイ・かわいい腕時計を身につけたりすることで、そんな自分に自信を持つようになる。そして、その時計にふさわしい自分になるよう努力し、高みを目指すようになるのだ。

このように、腕時計には様々なメリットがある。腕時計は私達に時刻を教えてくれるだけでなく、他の面でも私達を支えてくれる存在だ。気持ちの切り替え、時間に対する意識、自信を持つことは、いずれも大切なことである。みなさんも、腕時計を身につければきっと気持ちが変わるはずだ。

(若林)